

日本産婦人科医会 記者懇談会

性暴力救援センター日赤なごやなごみの
設立までの状況と課題

2018年11月14日 19:00～19:30

長江美代子・片岡笑美子

きっかけとなったこれまでの活動

- 2007年に三重県で立ち上がった「NPO女性と子どものヘルプラインMIE」の理事
- 月に一回DV被害者支援として個人とグループを対象としたカウンセリングをはじめた。
- 時々ニーズに応じて講座も開いた。

女性と子どもに対する暴力に取り組む

- 社会の理解を得る：

- 日本文化におけるDVの文化的スクリプト
- DVの精神的影響⇒ 心のケアの必要性

治療のため
生活を支える

- 回復へのプロセス：親子プログラム（母子相互作用）

- 子どもの発達障害、適応障害
- 母と子のトラウマ

健康的な親子の
関わり

- 暴力の世代伝達を断ち切る：周産期に介入し母子を守る

- DVドゥーラの養成プログラム

母子の絆

- つなぎのアウトリーチ：

- 街角メンタルヘルスプロジェクト

つなぐネット

支援活動、研究活動から見えてきた 支援の課題

- 複合の問題を抱えている
 - 段階的、多面的支援が必要
- 就労支援の前に“心のケア”への配慮
 - 経済的支援の重要性
- 複雑性PTSD(心的外傷後ストレス障害)の理解が不可欠
 - 自ら支援につながるできない状況に対して「申請」を前提とした支援の在り方への疑問
- 子どもにあらわれる問題で「おわらない」
 - 過去にならないDV

自殺予防のアウトリーチ: 街角メンタルヘルス

- 暴力の世代連鎖
 - 虐待やDV被害の背景に孤立した妊娠・出産・子育てがあり、その延長ともいえる子どもの発達のがみや適応障害
- 慢性的な自殺念慮
 - 自分の人生を立て直したい」といった漠然とした主訴による依頼が多く、深い孤独、自責、不安、怒り、無力感、絶望感とともに慢性的な自殺念慮があったが、しがらみが自殺を思いとどまらせていた
- PTSD・不安・うつはDVなどの暴力被害者には共通にみられる
- PTSDに特徴的なトラウマ記憶は、物事や行動の意味の解釈や問題解決への認知反応を歪めるため、集中困難となり社会生活を妨げる。
- 利用者たちは、相談窓口で物事の説明がうまくできない上に、相手の話を正しく解釈できないために、支援にもつながりにくい状況になっていた。

自殺予防のアウトリーチの定義

日常で起こりがちな些細な問題をよろず相談窓口で受け付け、問題を整理して適切な窓口につなぐ、あるいは解決方法を一緒に考えるなどして、

希死念慮をいなく以前のより早い時期に介入すること。



性被害に気づく

子どもに対しては愛情がある・・・？

- ・主人はすごく、もうほんとに100%の愛情を注いでました。それだけが・・・

お風呂に毎日いれてくれて・・・。

- ・何もしない夫がお風呂だけは定期的にいれてくれていました。わざわざパチンコから帰ってきて。

う～ん、1時間くらいかけてました・・・。

こどもは、夜驚症、夜尿症、心理テストも途中で中断するほどのトラウマ **性被害発覚**

・・・現在治療中

長い間放置、調停でも父親に面会で何度も状態が悪化

急性期介入にとりくむ

慢性の複雑性PTSD状態の
被害者をケアしている内に、

これでは焼け石に水だ
被害に遭った直後から介入しなければ・・・
個人ではとてもできない



女性と子どものライフケアの立ち上げ

・自殺予防
・虐待・DVその他の暴力(子どもから高齢者)
・トラウマ
・認知症,発達障害
・支援体制づくり(暴力被害者,精神障がい者とその家族)

研究

支援者
育成

・人の心を理解するための基礎講座
・性暴力被害者支援看護職養成(SANE)
・ドゥーラ養成(母子支援者)

こころ
のケア

つなぎ
の支援

・カウンセリング
・親子のケア
・サポートグループ
・トラウマケア

街角メンタルヘルス
(健康医療福祉ネットワークによるつなぎ)
・アウトリーチ(支援者の派遣,訪問在宅)

暴力被害者に対する被害直後からの継続したケア

2013年からの5年間

暴力、特にPTSD発症率が極めて高く悪性の
サイクルになっている性暴力被害に対する**急性期介入の充実**
(個人の力では無理で、体系的な取り組みが必要、拠点病院がほしい)

医療・司法・行政のワンストップシステム → **なごみ**



長期間支援が得られず慢性PTSDで心身ともに社会参加ができ
なくなっている被害者の回復のための積極的なPTSD治療
トラウマケアセンター



暴力の世代伝達を断ち切るためには周産期において女性と子ども
を守る事がキーポイント ドゥーラの養成と派遣

11



いろいろな働きかけ

- ハートフルステーションあいちはどうなっているのか？(2009の「国の呼びかけ」にどことも反応せず、大雄会病院が手を挙げた)
- 2012.9 第二日赤で非常勤リエゾン開始
- 2013.12.16 名古屋第二赤十字病院 片岡副院長兼看護部長に電話 (現なごみセンター長)
- 2014.1.15 導入「暴力の構造」 看護師長対象に講座
- 2014.2.6 愛知県産婦人科医師会副会長に繋いでもらう
- 2014.2.10 地域のS産婦人科、副会長のK産婦人科 訪問
- 2014.2.15 A医科大産婦人科医師とのディスカッション 新聞社をまわる 愛知県警(後に担当者が移動)
- 2014.3.2 名古屋第二赤十字病院内 会場借りて小西聖子先生講演会開催
- 2014.3.17 恩師に大雄会病院の元院長を紹介してもらう
- 2014.4.9 連携している弁護士とのディスカッション
- 2014.5.14 大阪SACHICO見学
- 2014.7.23 片岡副院長 初回SANE 会場を名古屋第二赤十字で実施することを交渉
- 2014.7.26 白川先生ワークショップ
- 2014.10.17 産婦人科女医会参加
- 2014.12.26 片岡副院長より センター開設幹部会通過の連絡あり



性暴力被害に関わるきっかけ(現片岡笑美子センター長のつぶやき)

初めて性暴力の実態を知る
初めてワンストップ支援センターの存在を知る

2014年3月2日(日) 名古屋第二赤十字病院 研修ホール
講演「医療現場における 暴力被害者への急性期介入と支援の重要性」
小西聖子氏 武蔵野大学臨床心理センター長、教授、精神科医、
臨床心理士
「性暴力救援センター大阪SACHICOの現状」
加藤治子氏 産婦人科医

子どもの被害に驚愕・
大人が子どもを
守らないと

こんなに苦しんでいる人がいる。
なんとかしないと

会場
貸して
下さい



女性と子どもの
ライフケア研究所
長 江美代子



しかし、院内批判が...

これ以上仕事を増
やすのか！
高度急性期病院が
することではない！
余分な出費



石川清 (前)院長



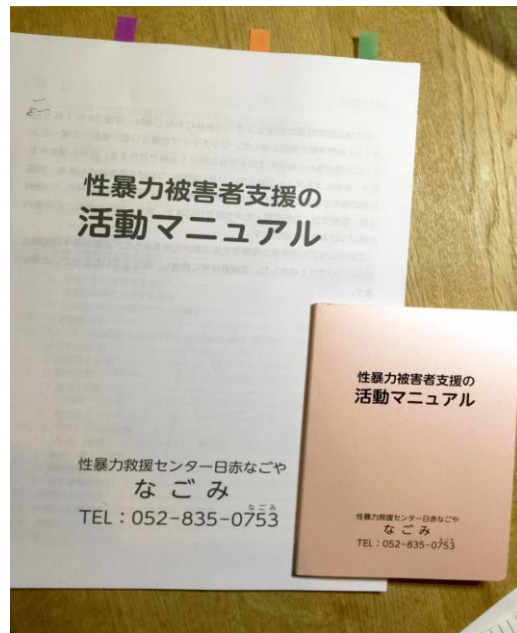
性暴力被害者支
援は、ある意味、
社会貢献です。
赤十字病院であり、
救命救急センター
である当院が取り
組む活動として意
義は大きい！

いろいろな働きかけ 続き

- 2015.2.18 開設に向けての準備会議
- 2015.2.25 名古屋市男女共同参画→内閣府助成金
- 2015.3.6 愛知県警 訪問(後にまた担当者は移動)
- 2015.3.16 当時の愛知県産婦人科医会 訪問
- 2015.3.19 Y大学 法医学者に相談
- 2015.3.25 ワンストップセンター準備会議
- 2015.5.8 朝日新聞取材
- 2015.6.22 ニュースリリース
- 2015.7.3 NHKナビゲーション中部地区で放映(24分)
- 2015.7.13 日経新聞取材
- 2015.8 おはよう日本 放映(7分)
- 2015.10～2016.1.28 SANE名古屋2016(約30名SANE養成)
- 2016.1.5 **なごみ開設**

院内プロジェクト 開始

- マニュアル作り
- スタッフ研修
- 場所の確保
等々



2016.1.5開設

地域との連携による病院拠点の支援モデル

